

特別支援教育実践マニュアル

<No.10>

～ ソーシャルスキル トレーニング 特集号 ～

特別支援教育実践マニュアル<No.10>をお届けします。

今号では、「ソーシャルスキル トレーニング (SST)」をご紹介します。

ソーシャルスキルとは、いろいろな人と円滑なコミュニケーションを図る上で大切な能力です。例えば、クラスメイトに「それ貸して」と言われた時に、「ダメ」、「嫌だよ」とそっけなく断るのではなく、「今僕が使ってるから、終わったらね」と答えることでコミュニケーションが円滑になります。

ソーシャルスキル トレーニングは、「通級指導教室」で個別に練習したり、学んだことを小グループで実践したりしています。

また、クラスの中でゲーム形式で実施し、効果を上げることも期待できます。

ここでは、クラスの中でできるトレーニングを紹介します。

事例でみる ソーシャルスキル トレーニング

事例 20

人の話を最後まで聞かず、乱暴な言葉を使う小学生

事例 21

なぜ嫌がられているのかわからず悩む中学生

浦安市教育委員会
教育研究センター

クラスで行う ソーシャルスキル トレーニング のポイント

- ・人付き合いの楽しみ方を学ばせる気持ちで指導すること
- ・教え込むような雰囲気ではなく、楽しい雰囲気の中で行うこと
- ・学ぶことが、楽しくて仕方ないような工夫がなされていること
- ・友達と一緒に活動する喜びを味わえる工夫がなされていること

トレーニングの実施手順

- ① トレーニング内容の説明をする
- ② トレーニングのねらい、目標を説明する
- ③ トレーニングを行う
- ④ トレーニングを振り返り、上手にできたらほめる



(例) キャッチボール

先生：「今日は2人組でキャッチボールをします。できるだけボールを落とさないで、楽しく続けるにはどうしたらいいか、考えてみましょう。」

Aくん：「僕は、ボールを強く投げると楽しいと思います。」

先生：「Aくんはボール投げが得意だから、強く投げるとキャッチボールが楽しくなると思うのね。ほかの人はどうですか？」

Bさん：「私は、強いボールがくると怖いです。キャッチボールは苦手だもん。」

先生：「では、Bさんとキャッチボールするときは、どんなボールを投げたらいいかな？先生とAくんとキャッチボールしてみますね。よく見ていてください。」

クラス：「はい。」(先生とAくんとでキャッチボールをして見せる)

先生：「Aくん、いろいろな強さでボールを投げられるね。Aくんが優しいボールを投げってくれたから、先生は怖くなかったよ。じゃあ、それぞれやってみよう。」

Bさん：「あ、落としちゃった！」

先生：「Bさん、誰だって落とすことはあるよ。だいじょうぶ、気にしない。」

<ねらい>

- ① 相手のペースに合わせる
- ② 相手の失敗を責めない
- ③ 協力する楽しさを味わう

- 教師は子どもにとってソーシャルスキルを学ぶ際の「モデル的存在」です。
- 温かい雰囲気のクラスは、ソーシャルスキルを発揮しやすい場です。

【事例20】人の話を最後まで聞かず、乱暴な言葉を使う小学生

小学2年生のW子さんは、授業中、クラス全員に向けた先生の質問を最後まで聞かず、大きな声で答えを言ってしまいます。他の子が挙手して間違えると「バッカじゃないの！」と大きな声で言います。

反面、W子さんは想像力が豊かで、クラスメイトに人気があります。

<お話しレー>

- 少人数のグループで、順番に1文ずつ文章を作り、一つの「お話」にする
- 他児がどんな文章を作ってもそれを活かして話をつなげていく
- 最後に、グループ毎に完成した「お話」の発表をする
- W子さんのグループには、大人が入る

(例)



想像力が豊かなW子さんの個性を生かしたトレーニングです。
話の筋が予想通りにならなくても、面白い物語ができあがります



<ねらい>

- ① 相手の話をさえぎらずに聞く
- ② 協調する快さを味わう

- 誰でも、自分の得意な分野では自信を持ち、楽しい気分に取り組むことができます。自分の番まで楽しい気分です「待つ」体験は、衝動性のコントロールの練習になります。

こどもの年齢や特性に応じて、他にも以下のようなトレーニングがあります。

- 『絵カードでお話づくり』
- 『描画しりとり』
- 『漢字しりとり』



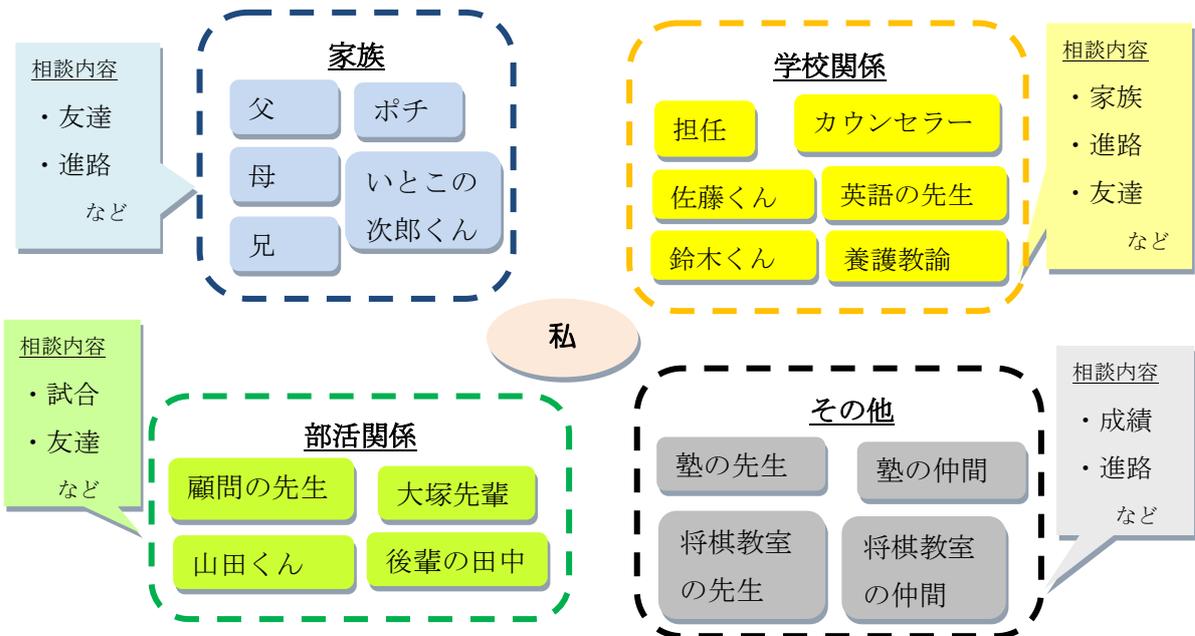
【事例21】 なぜ嫌がられているのかわからず悩む中学生

中学1年生のTくんは、「オレ達は仲間だ！」という部活の先輩の言葉をそのままに受けて、いつでも親しく話しかけてしまいます。そのため先輩から、「タメ口いってんじゃねえよ、生意気なヤツ！」と言われます。Tくんは、なぜ自分がそう言われて嫌がられるのかわからず、一人で悩んでいます。

<自分を助けてくれる人は誰？>

- ・付箋に自分を取り巻く人の名前を書いて準備する
- ・白紙用紙中央に「私」を貼り、名前の付箋をいくつかのグループに分けて貼っていく
「両親」「きょうだい」「祖父母」「親戚」「友達」「先輩」「先生」「知人」など
- ・班の中で図を紹介しあいながら、普段、誰にこういった内容を相談しているか発表する

(例)



<ねらい>

- ① 悩んでいるのは自分だけではないことに気付く
- ② 相談できる人が複数いることに気付く
- ③ 内容に合わせた相談相手を見つける

- お互いを認め合う雰囲気の中で、仲間と悩みを共有できると、困難に立ち向かう勇気が湧いてきます。
- 「苦手なこと」を認め合い、お互いの「苦手さ」を手助けできる学級では、子どもの個性が輝きます。

まなびサポート事業

教育研究センター〈美浜北小学校内〉 381-7960・7961

まなびサポート相談室〈見明川中学校内〉 390-5204